

一般会計の歳入と歳出の特徴

歳入

市税は2億2千562万円の増

歳入の根幹である市税は、前年度予算額274億3千607万円に対し、今年度予算額が276億6千169万円となり、2億2千562万円の増額となりました。

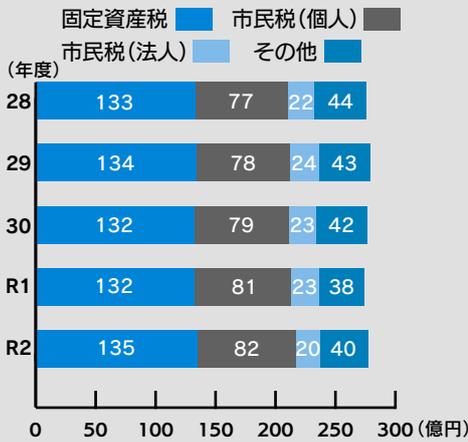
これは、市民税が約2億63万円の減額に対し、固定資産税が2億5千242万円の増額、市たばこ税が1億2千999万円の増額となることなどを見込んでいます。

市税の収納率については滞納整理など積極的に取り組み、平成30年度は96.5%と前年度を上回っており、今後も収納体制の強化に努めさらなる収納率の向上を目指します。

市債は4億8千50万円の増

主に建設事業を行うために借り入れる市債

市税収入の推移データ (令和1・2年度は予算額)



令和2年度の内訳は、固定資産税が約49%、市民税(個人)が約30%、市民税(法人)が約7%となっています。

ネーミングライツによる 広告収入について

令和2年度予算額 16,300千円

施設名	愛称
白鳥アリーナ	白鳥王子 アイスアリーナ
緑ヶ丘野球場	とましんスタジアム
市民文化公園	出光 カルチャーパーク
沼ノ端 スケートセンター	ダイナックス沼ノ端 アイスアリーナ
日新温水プール	アプロス日新 温水プール
沼ノ端 スポーツセンター	アプロス沼ノ端 スポーツセンター

歳出

人件費は約10.9%の増

市職員の給与、退職金、議員や委員の報酬などの経費である人件費は、会計年度任用職員制度の開始などにより、前年度比約10.9%増

の約10億9千65万円増額となりました。

扶助費は約2.9%の増

高齢者・児童・生活困窮者などを援助するための経費である扶助費は、保育所費の増などにより、前年度比約2.9%増の約6億9千284万円増額となりました。

公債費は約0.4%の減

施設建設などのために借り入れた市債を返済する経費である公債費は、償還金利率の金利低下などの影響で、前年度比約0.4%減の約3千201万円減額となりました。

普通建設事業費は約2.5%の増

学校、道路、公園などの整備を行うための経費である普通建設事業費は、全体として前年度比約2.5%増の約3億602万円の増額となりました。これは防災行政無線の整備などの大型事業費が増加したことによるものです。

今後も予算の効率的・効果的な執行に努め、財政の健全性を確保しながら、さまざまな課題に対応できる持続可能な財政運営を目指していきます。